

ベナン共和国

【国名】

- 国名は、12世紀から19世紀にかけて西アフリカの沿岸部に栄えた旧「ベナン王国」に由来。

【国旗】

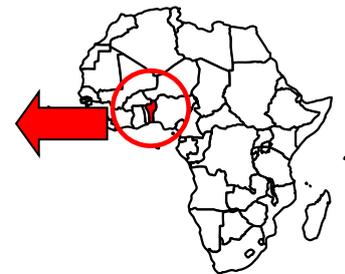
- 1960年の独立時から使用。その後1975年から1990年までは別のデザインが用いられていたが、現在は再び独立時の国旗に戻った。
- 緑が復興への希望、赤が先祖の勇気、黄色は国富をもたらす吉兆を象徴するとされている。



ベナン国旗

【国土】

- 西アフリカの沿岸国。
国土面積は日本の約3分の1（112,622平方キロメートル）で、人口は1,212万人。首都はポルトノボ。



【ガンビエ水上集落】

- 約4万人が生活する水上集落でベナンでも有数の観光名所。「アフリカのベネチア」とも呼ばれる。



- 紀元前、北部の部族による度重なる侵入に追われ、ラグーン（潟湖）上で生活を始めた部族がおり、同集落の起源を形成したといわれる。



【奴隷海岸】

- コトヌから西方約30kmに位置するウィダ沿岸は、17～18世紀にかけ、奴隷貿易の基地が築かれていたことから「奴隷海岸」と呼ばれた。
- 17世紀にフォン族を中心として形成された

ダホメ王国は、周辺国を征服し、奴隷貿易の支配権を掌握して繁栄したという歴史がある。現在、多くの奴隷が貿易船に運び込まれたとされるウィダ沿岸の場所には「帰らずの門」が建立されている。



【アボメイの王宮群】

- コトヌから北方約 145km に位置するアボメイ市に広がる王宮群。17 世紀前半から 12 代に及ぶダホメ王朝の歴代の王が先君の霊を慰めるため、各々の王朝を継ぎ足す形で建設されてきたもの。



- 1985 年、世界遺産に指定され、2002 年～2005 年、ユネスコ文化遺産保存日本信託基金により修復工事が行われた。
- 2021 年 11 月 9 日、仏大統領官邸にてアボ

メイの文化財返還に関する二国間文書の署名が行われ、翌 10 日、返還された 26 点の文化財受領式典がベナン大統領府において実施された。2022 年 2 月から大統領府における展覧会が行われた。



【特産品】

- パイナップル、カシューナッツ、シアバター、パーム油、様々な動物を配したアップリケ、テーブルクロス等加工されたアボメイ地方の綿織物、木像等。

【民族・民族文化】

- およそ 46 民族が居住（フォン族、ヨルバ族など）し、民族間の交流が盛ん。
- ベナンの諸民族は民族独自の踊りを有しており、冠婚葬祭等で披露する。
- 木彫りの仮面を特徴とするヨルバ族のダン

スであるゲレデは、2001年、ユネスコ無形文化遺産に選出。仮面には、女性の神聖な力が宿っているとされ、男性が仮面をかぶって踊ると、その力が男性にも移ると信じられている。

- ベナンはカリブ地域のハイチや米国の一部、ブラジルなどでも信仰されているブードゥー教発祥の地。ブードゥー（ヴオドン）とはフォン族の言葉で「精霊」を意味し、奴隷貿易と共にアメリカ大陸に伝わった。黒魔術等、オカルト的な面が強調されがちであるが、起源はアニミズムである。

【スポーツ】

- 約2,400名の柔道人口と、34の公認柔道クラブが存在。在ベナン日本大使館は、当地柔道連盟との共催により、2015年～2019年には「柔道大使杯」を開催。また、中古柔道着供与も実施（スポーツ外交推進事業）。



- 柔道と並び人気の空手の競技人口約 8,000 人、ベナン空手連盟公認クラブ数は 26。2017 年には、女子 55kg 級でアフリカチャンピオンを輩出。他にも合気道や剣道連盟が活動している。

【日本を代表するバスケットボール選手】

- 八村塁（はちむらるい）選手
米国プロバスケットボールリーグ（NBA）で活躍する選手。2021 年の東京五輪開会式で日本選手団の旗手を務めた。ベナン人の父と日本人の母を持ち、富山市内で育った。2018 シーズンでは、NCAA 年間最優秀スマールフォワードに与えられる「ジュリアス・アービング賞」を受賞。2020 シーズンはリーグの若手オールスターゲーム「ライジングスターゲーム」に日本人初出場。



【国際的に活躍するベナン出身者】

● アンジェリーク・キジョー

ベナン出身のシンガー・ソングライター。東京 2020 オリンピック（五輪）開会式で、ジョン・レノンとオノ・ヨーコの楽曲「Imagine（イマジン）」において、アフリカ大陸代表として参加。2022 年の第 64 回グラミー賞では 5 度目の受賞をした。

● リオネル・ザンス元ベナン首相



2015 年 6 月経済開発・公共政策評価・グッドガバナンス促進担当首相に任命され、2016 年 3 月の大統領選挙に出馬するもタロン氏に敗れた。Terra Nova 財団代表、前 PAI PARTNERS 投資財団

総裁、Southbridge 投資銀行共同設立者。経済学者としてフランスで活躍。

- **ゾマホン元駐日ベナン大使**
1994 年来日、上智大学大学院で学ぶ。芸能活動の収入を元手に、母国に3つの小学校と日本語学校を設立し、2002年、ベナン共和国国民栄誉賞、2017年、(日本) 外務大臣表彰受賞。



- **ノエリー・ヤリゴ選手**
東京 2020 五輪にベナン代表(陸上女子 800m) として出場し、準決勝に進出。2022 年 5 月スウェーデンで開催されたグランプリにて同種目の金メダルを獲得した。



【地方自治体交流】

- 横浜市は 2013 年のコトヌ市長来浜以来コトヌ市との交流を進め、特にスルレレ小学校と笠間小学校の児童が絵や楽器演奏の交換を通じた交流を実施した。
- 幸手市は、2018 年 8 月 31 日、東京オリン

ピック・パラリンピックにおけるベナンのホストタウンとして登録された。駐日ベナン大使の同市訪問をきっかけに交流が深まり、ベナン人空手選手及び音楽家の同市訪問、ベナン料理講座の実施、同市の月間広報紙でのベナン情報の掲載、ベナン人オリンピアンと同市の子どもたちとのメッセージビデオ交換交流等様々な交流活動が行われた。



【たけし日本語学校】

- 2003年9月に設立されたベナン初の日本語学校であり、当地において唯一無料で日本語を学習できる。
- 現在、200名程度の受講者が日本語を学んでおり、多くの国費留学生を輩出するなど

精力的に日本語・日本文化の普及に取り組んでいる。

- 例年12月には、国際交流基金等が主催する「日本語能力試験」が同校で実施されている。



(了)